

5人の 絆²

タイガース完全復活

高音の美声を持つ、芸術家肌の加橋かつみ。沢田研二との二本柱のボーカルはザ・タイガースの魅力の一つだった。デビュー12年後の1969年に脱退してしまいが、当初からアイドル的な人気に関心がなく、不本意な思いを抱えていた。

加橋かつみ



清水敏明撮影

複雑な思い 今こそ「音」に

「少女趣味な歌で、イヤだなあと思ってた。今考えると、美しいロマンチックな曲だけだ」

ビートルズなど憧れた海外のバンドのように、ベトナム戦争などの暗い世相の中、音楽で愛と平和を訴えたかった。

同様の思いがあったメンバーの意向も受けて作られたのが3作目で、加橋参加の最後のアルバム「ヒューマン・ルネッサン

ス」だった。メインボーカルを務めた「廃虚の鳩」は、言外に反核のメッセージが読み取れる。「あの時は精いっぱい、いい仕事が出来た。僕が見ていたものは、女性が求めるラブソングとは少し違うものだった」

その思いを、脱退後も貫いた。69年、反戦色の濃いロック・ミュージカル「ヘアー」の日本版で主演。こうした活動は、常連だった東京・六本木のイタリヤ料理店「キャンティ」の人脈によるものが大きかった。芸術家が集う流行発信基地で、そこに

若き日の荒井(松任谷)由実もいた。「ヘアー」の楽屋にも制服姿で来ていたね。ソロ作「愛は突然に」は、ユーミンの作曲家デビュー作となった。

タイガース時代は「カゴの鳥」で、「僕は常に反抗児。最後はカゴを破った」と語るが、「突然やめた形になったから、具体的なことが分らないファンに申し訳ない。でも話したくないし、今さら言っても始まらない」と言葉を濁す。「これから

44年ぶりに結成時の5人が集

まる12月の公演に、「今回は本当のタイガース。5人が集まった学生の時、妙なグルーブがでさちゃったと思っていた。それぞれの間の関係が足し算じゃなくて、かけ算なんです」。

タイガースへの複雑な思いは音で表現したいという。「音楽は言葉にならないことを表現する。頭ではなく心で受け取ってもらいたい。僕の不完全燃焼な思いも今回で解消したい」

次回は11月1日、腫みのるの予定です。

